INTERVIEW

入社５年目までの本音座談会



なぜ、ゼネコンを選んだの？ 長野と東京の二拠点で違いは？ どうやって会社のなかで成長できるの？
５年間の研修を受けながら、施工現場やオフィスで活躍している５人の先輩社員たちが、
本音で語ってくれました。北野建設って、どんなゼネコンなんですか？

実はゼネコン志望ではなかった！？ それぞれの目標に対する選択肢

K・S（建）：正直な話をすると、大学では意匠系の授業が多くて、ゼネコンはあまり頭になかったんです。だけど説明会では、一度現場を経験してから職種を変える人が多い、ということを聞いて、じゃあ施工管理からかなと思って。転勤はあまり好きじゃなかったので、長野と東京だけの二拠点っていうこと、それと、社寺物件にも興味があったからこの会社を選びました。


東京 / 建築　K・S（建）　建築史が好きで社寺仏閣に興味津々

R・M：僕は小さなころに、祖父が大工の棟梁として家を建てたと父から聞かされたんです。人の手でこんなものが作れるんだと感銘を受けて、建築に興味を持ちはじめました。だから住宅に興味があったんですけど、規模が小さいじゃないですか。大は小を兼ねるじゃないですけど、先にゼネコンで大きなものを経験しておけば、小さい住宅もできるようになるんじゃないかなって。父親も以前はゼネコンにいて、「この物件を施工したんだよ」って話を聞くと、俺もそれを言いたい！ と思ってました（笑）。

K・S（設）：僕は生まれも育ちもほぼ東京で、正直、成り行きでした。就活をしているとき、設計を嫌いになりかけていたんです。そんなときに、隣の研究室の教授からご紹介いただいたひとつが、北野建設でした。設計には、主にアトリエと組織、そしてゼネコンという選択肢があります。僕は自分の思想を体現化したり理論立てしたりするのではなく、他の人と話し合いながら１つのものを作っていく仕事をしたかったので、ゼネコンかなと。入れるかどうかはおいといて、大手では全体を見れなくなってしまうのではないかと思って。ガツガツ仕事をしたいタイプではなかったんです。関わっていく中で、まず全体を把握したうえで仕事をしてみたいと考えました。

R・S：大学は千葉方面の建築系の学科でしたが、実際に就活で会社を選ぶときは、地元が長野だったので、戻って仕事をしたいと考えていました。意匠よりも、自分は現場で体を動かしたほうが合ってるなって思ったので、北野建設の現場監督を選びました。椅子に座ってパソコンに向かうとか、ずっと打ち合わせとかは無理だなと思ったんです（笑）。だったら現場でいろんなところを動き回って、職人さんたちと話している方が、きっと自分に合ってると思ったんですよ。もともと体を動かしてることが好きではあったので。

C・K：自分は10歳までフィリピンで育ったんです。道路や街はまだまだ発展途上で、そんなに綺麗ではなくて。その後、小学５年生で日本に来たら東京はビルもすごいし、あと橋とかダムを見て、土木はもっとすごいなと思ってゼネコンを選びました。

長野と東京で共に成長できる 月に一度の研修でコミュニケーション

K・S（建）：月に一度、長野と東京のどちらかで研修があって、現場の見学会もあるんです。今度は軽井沢の現場を見学できるのが楽しみです。東京とは違った気候への対応や工法とか、現場ならではの工夫が見られるので、ワクワクしてます（笑）

R・M：研修中にディスカッションの時間が設けられるときもあれば、休憩時間の雑談という形でも、同期との間でやり取りをしやすい環境だなって思います。

C・K：この月は、この議題について話し合いましょうという小会議があるんです。フリーな話題だと意見が出にくくても、これについて話そうっていうものがあると、あの現場でこういうことがあったんだって話しやすくなる。似たような現場でこれをやっていたから、同じ方法で進めようとか。この会議はけっこう勉強になりました。


長野 / 建築　R・M　ロックマインドで一級建築士に合格！

R・M：建築だと施工管理技士の講習会があって、玉掛け（技能）や高所作業車（運転技能）、安全面だと酸素欠乏（危険作業）や化学物質（管理者）とか資格を通じて、安全面に対する知識を養うこともできます。僕は毎月の研修の中で外部の講習を受けながら、資格を取ることを続けています。

充実の教育制度で若手の成長をバックアップ！

1年目 工事現場に慣れる
2年目 工事現場を理解する
3年目 工事現場を管理する
4年目 資格を取る
5年目 工事現場を運営する
6年目 現場責任者になる

若手社員のモチベーションを最大化するために、丁寧なOJTと集合教育を実施。現場責任者への道のりをサポートします。


長野 / 土木　C・K　父の背中を見て土木の道へ

長野と東京に独身寮を完備 充実した福利厚生でリフレッシュ

K・S（設）：入社５年目まで、社員寮に住めるんです。東京だとけっこう立地がいい渋谷区と品川区に２軒あって、会社まで30～40分ぐらい。月々の家賃もさほど苦にならない程度で、そういう補助が出てるのは、利点のひとつとして挙げられるのかな。あと、休日に宿泊施設を安く借りられたり、他のゼネコンではあまり聞かない制度もあります。

K・S（建）：私の住んでいる寮は静かなところで、住みやすいですね。駅からはちょっと歩くけど、商業施設もあるし、なんでも揃います。

K・S（設）：あと、育休を取る方がここ数年で増えてますね。私の先輩も２週間くらい育休を取ったんですけど、前々からお休みすることがわかっていたので、社内で仕事を振り分けました。その結果、誰かの負担になることもなく、動くことができました。施工管理の会社だから、育休を組み込んだり調整したりすることに慣れてるんだと思います。

忙しい施工管理の毎日と 気になるワークライフバランスは？

K・S（建）：私はライブのチケットが当たったら、そのためだけに今月は頑張れる（笑）。そういうタイプなので、目標を見つけに行ってるんですよね。応募して当たれば、２ヶ月に１回は行ってます。K-POPアイドルが好きなのでペンライトは絶対に買います！

R・S：僕はちょっとした出費なんですけど、新しいオフロードカーを買いました。納車されてから通勤にも使っているんですが、休みの日はちょっと遠出したり。実家に帰る道のりも、ドライブをしながら、いつもより長めに走ったりしています。

R・M：ロックバンドが大好きなので、僕もここ最近はライブに行きまくっています。去年までは一級建築士の勉強をしていて、ずっと遊びに行けなかったんです。３年間やり続けたので、いまは解放されてます！

K・S（設）：僕は旅行かな。温泉に行くのがいちばんの息抜きなのかなって。業務から解き放たれて、ひとりでふらっと行ったりするのが、気分転換としてはいいと思います。

C・K：自分も旅行です。全国のいろんなところに友人がいるので、泊まりに行ったりとか。今度広島へ弾丸で行ってきます。厳島神社とか観光してみたいな。


共同生活でのプライベートとコミュニケーションを重視した社員寮には、オープンキッチンやトレーニングルームも。

増えているキャリア入社の先輩たち その知見からも学ぶことがたくさん

R・S：いまの現場はキャリアの方が１名います。施工管理を15年ぐらいやっていて、いろいろなことを知ってるので、学べることがたくさんあるんですよ。どうやって現場を見ながら、段取りをしていくのか。とても人当たりのいい方で、よく面倒を見てくれます。キャリアの人だからこそ、教えてもらえることがあるんだと思います。


長野 / 建築　R・S　趣味はバスケ、とにかくアクティブ！

K・S（建）：いまの現場では２名がキャリアの方です。「北野はこうなんだね」とよく言われるので、意外と独自の北野ルールがあるみたいです。

K・S（設）：僕は意匠設計担当なんですけど、設備担当が最近入社されたキャリアの方で、仕事ができる上に、うちにないノウハウを知っているんです。そういった、人づてじゃないと学べないことも、きっとあると思います。

C・K：現場ではキャリアの方についていって業者さんと一緒に話したり、自分がわからないことも、「ここを確認した方がいいよ」って教えてくださることが多いです。

ところでR・M さん、さっき話してた放射状のコンクリートの現場打ちって、どうやって墨を出すんですか？

R・M：うちの現場だと測量機器から図面上に落とし込んでから基準点を追って……


東京 / 意匠設計　K・S（設）　機知に富んだ優しい言葉が印象的

探究心はとめられず、
部署を超えた研修がはじまったので、座談会はこのへんで。
一緒に成長できる仲間たちと、ものづくりをしませんか？
皆さんにお会いできる日を楽しみにしています！